

大腸がん検診の向上に関する研究



氏名 岡田 茂治 准教授

所属 健康開発学科 臨床検査学専攻

URL <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=3010ka>

研究分野
 1. 大腸がん検診に関する研究
 2. 尿検査全般に関する研究
 3. AI (Artificial intelligence) の臨床応用研究

キーワード 大腸がん検診、カットオフ値、診断システム

■ 研究シーズの概要

大腸がん検診の有用性に関する研究

カットオフ値の検証結果

我々の研究結果では、適正なカットオフ値の設定とカットオフ値を参照した精検受診の勧奨が大腸がん検診の有用性の向上に望ましいと考えられた(図1)。これにより効率の良い大腸がん検診が実施可能となり、大腸がん発見率の向上と有効な精検受診勧奨の実施、大腸がんによる死亡者の抑制に貢献できるものとする(図2)。さらに性別、年齢を加味した適正なカットオフ値の検討を行っていくことで、さらに効率をあげられる可能性がある。

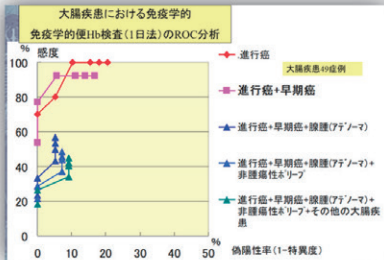


図1

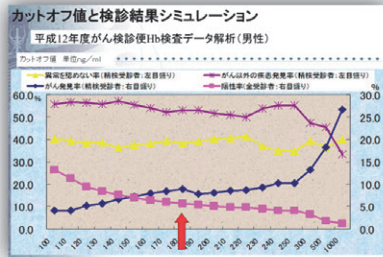


図2

■ 共同研究のご提案

- 適正なカットオフ値や1次スクリーニング検査陽性者に対する精検受診者への勧奨のあり方、結果報告・勧奨方法など意見交換を行い、がん検診の向上に向けた検討をしていきます。
- AIを利用した新たな大腸がん検診のアプローチなど新たな診断システムの研究開発を試みます。

■ アピールポイント

いままで臨床現場で大腸がんの検証研究を様々なアプローチで行ってきました。大腸がん検診に従事されている方々と共同で大腸がん検診のさらなる向上に向けた実践的研究活動を希望します。高齢化社会となり大腸がんは年々増えています。人生100年、QOLの向上、健康意識の高い人の増加など、今後さらにはがん検診の役割は重要になっていくと思います。がんの中でも大腸がんはとても治療成績が良く、がん検診がとても有用な疾患です。現在実施されている大腸がん検診の向上に、少しでもお役に立つことができればと思います。